

川との思い出

霜鳥 天羅

「ザーザー」。

雨がふった。

とある晴れの日、サマーキャンプというイベントに、参加した。サマーキャンプでは、川遊びが楽しいと聞いた。

川遊びをしに行くため、キャンプ場からはなれ、川に向かった。その時は、晴れやや

くもりくらいだった。森の中を歩き、少し危
件な道を通り、川についた。川はすまとお
っていて、とてもキレイだった。水びおもい
つまり遊んだ。水をかけあったり、体全身フ
かったり。ひも川の水は冷たかった。楽しい。
楽しい。と思っていた。だが、場をかえたの
は、一しやんの出来ごとだった。

「ザーザー」。

雨がふった。いきなりふって少し、いやな
気持ちになった。せっかく川に遊びに来たの

に。ない。色々な感情がこぼれた。これも仕方ないことだ。雨は、日本たといつかはおふつてしまふものだ。仕方なく、帰った。雨かふるまひの間は、すごく楽しかった。

ぼくは、川で遊んで、自然をもっと大事にしようと思う気持ちだ。中川みたいな川は遊べないけど、ひびくらの高き川はおもしろい。あそぶのび。また行きたいと思った。すごく良いとも言えず、味で言うところの、あまおっぱいほくの川との思いひは、一生の宝物にしようと思へた。

